

二二一四番

我がやどに 植ゑ生ほしたる 秋萩を 誰か標刺
す 我に知らえず

二二一五番

手に取れば 袖さへにほふ をみなへし この
白露に 散らまく惜しも

二二一六番

白露に 争ひかねて 咲ける萩 散らば惜しけ
む 雨な降りそね

二二一七番

娘子らに 行きあひの早稲を 刈る時に なりに
けらしも 萩の花咲く